

3K吹っ飛ばせ、3Sだ

くわえタバコで、つばを床にペツ。工具は使いつばなしで散らかし放題。

かつて町工場は汚かった。大阪の「山田製作所」も、1999年までは無残だった。商談にくるはずの客がこないことがあった。近くまで来たけれど、こ

んなきつたない工場は信用できん、と引き返していたのだ。

でも、専務だった山田茂(48)は見えて見ぬふり。電池部品の装置づくりで、もうかつていたも

やいでいた。あはや僕は「帰国すると、頼り切っていた取引先からの注文が減りはじめ、翌年1月には、ほぼ全滅。あらたな客の開拓で営業にいくと、こう言われた。

機械はない、技術は平凡、値段は安くない。おまえんどの強みはなんやねん?

父が大事にしていた機械があった。でも使っていない。しめた、おなじ外出中や。スクラップ屋をよんで、トラックに積み。さあ持ってって。

おまえらの性根が気に入らんのじゃ。帰ってきた父の怒声が響き、どつき合いの親子げんかに。結局、機械は処分した。

山田親子と工場を見せあうライバルがある。これも大阪の「枚岡合金工具」。金型の町工場で、床はピカピカ、ゴミはゼロ、道具の整理は完璧だ。

山田親子と古芝兄弟がお手本にする町工場は、京都駅ちかくにある。創業70年、産業用機械

の「タナカテック」だ。2代目社長の田中稔(65)が、85年の田高不況をきっかけに3Sに取り組んだ。生き残り策はこれだ、と30人の従業員と進めてきたのだ。

でも、どんなに徹底したところで、仕事ができなければ赤字である。結果がすでに3Sをやめる町工場を、田中はいくつも見てきた。「社会貢献、と考えてみましょ。きれいな工場をみたら気持ちいいですよね」

きたない、危険、きつい。町工場をおおう3Kイメージを吹っ飛ばすには、やらなきゃならんことがある。(中島隆)



左から山田英二さん、茂さん、雅之さん

もてあました茂は、弟の雅之(46)を誘い、ある経営セミナーに行く。スクリーンに京都の町工場が映っていた。徹底した3S、つまり整理、整頓、清掃をしているという。帰る車のなかで兄弟は決起する。

これやらな、うちの工場、つぶれてまうで。つぎの朝、兄弟は従業員たち

国内外から視察にきた。ここなら信用できると取引先が増えていく。会長の英二、社長の

2001年秋、従業員の慰労

田中稔さん



古芝保治さん(右)と義福さん



田中稔さん